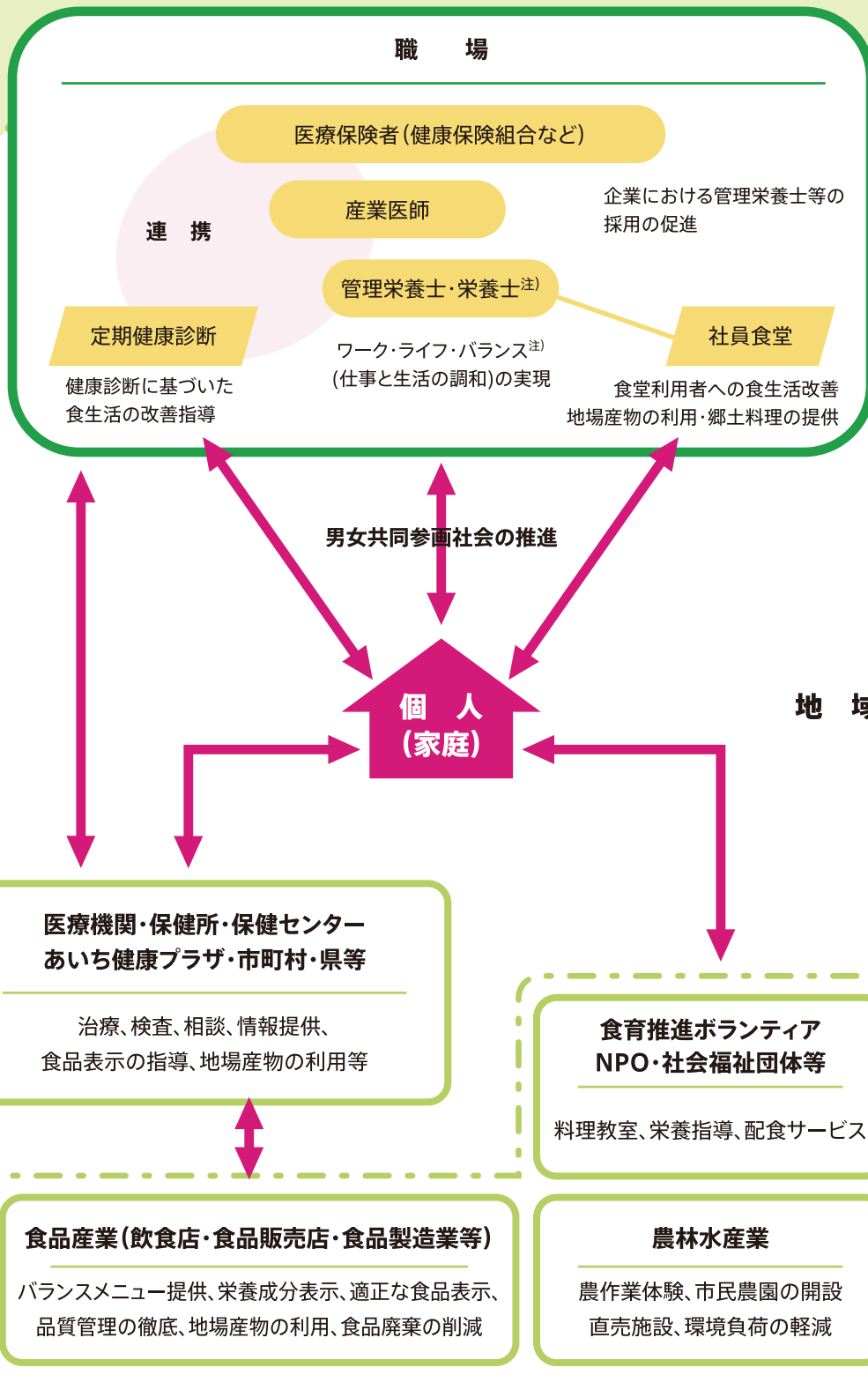


# 壮年・中年期、高齢期における関係者の取組連携のイメージ



## 4 食育の目標

### (1)「体」、「心」、「環境」の食育三本柱についての目標

#### ア 食を通じて健康な体をつくるための目標



##### ● 朝食の欠食割合

朝食は、活力ある一日を過ごすためのスタートとなる食事です。健康な体づくりに必要な栄養素の摂取だけでなく、会話を通じて家族のきずなを深めることにもつながります。

生活習慣の形成途上であり心身の成長期にある小学生や中学生、学校給食が終了し生活が不規則になりがちな高校生、並びに実際に欠食する割合の高い男子大学生及び30歳代男性の朝食欠食割合を減らします。

##### ● 朝食に野菜を食べている小中学生の割合

小中学生の朝食については、欠食の改善に加え、成長期であることから、次の段階として内容まで踏み込んだ指導が求められます。

主食、主菜、副菜のそろった朝食の指標として、野菜を食べている小中学生の割合を増やします。

##### ● 肥満・やせの割合

肥満を予防することは、生活習慣病の予防につながります。将来への影響の大きい小学生と中学生、生活が不規則になり始める高校生、肥満の割合が高く生活習慣病の発症が心配される40～60歳代の男性について肥満者の割合を減らします。

また、過度な痩身志向が数字に表れている20歳代女性について、やせの割合を減らします。

##### ● 自分の適正体重を認識し、体重コントロールを実践している人の割合

体重は、肥満ややせ過ぎを予防するためのバロメーターです。自分の適正体重を認識し、食事や運動により体重コントロールを実践している人の割合を増やします。

##### ● 健康な歯を持つ人の割合

歯の健康は、おいしく豊かな食生活に欠かせません。健康な歯でよくかむことは、肥満防止、脳の活性化など全身の健康につながります。

「むし歯のない3歳児」、「第一大臼歯がむし歯でない小学校3年生」及び「進行した歯周炎を有しない40歳」の割合を90%以上にします。

項 目		基準年	目標(H27)
○朝食の欠食割合	小学生(5学年) <sup>1)</sup>	2.4%(H22)	0%
	中学生(2学年) <sup>1)</sup>	5.0%(H22)	3%以下
	高校生(全日制2学年) <sup>1)</sup>	8.1%(H22)	5%以下
	男子大学生 <sup>2)</sup>	25.9%(H21)	15%以下
	30歳代男性 <sup>3)</sup>	14.8%(H21)	10%以下
○朝食に野菜を食べている小中学生の割合 <sup>1)</sup>	小学生(5学年)	60.9%(H22)	80%以上
	中学生(2学年)	47.0%(H22)	80%以上
○肥満・やせの割合	肥満:小学生(5学年) <sup>4)</sup>	8.6%(H22)	6%以下
	肥満:中学生(2学年) <sup>4)</sup>	8.1%(H22)	7%以下
	肥満:高校生(2学年) <sup>4)</sup>	9.7%(H22)	8%以下
	肥満:40～60歳代男性 <sup>3)</sup>	27.7%(H21)	15%以下
	やせ:20歳代女性 <sup>3)</sup>	28.2%(H21)	14%以下
○自分の適正体重を認識し、体重コントロールを実践している人の割合 <sup>3)</sup>	男性	43.7%(H21)	60%以上
	女性	53.2%(H21)	70%以上
○健康な歯を持つ人の割合	むし歯のない3歳児 <sup>5)</sup>	84.4%(H21)	90%以上
	第一大臼歯がむし歯でない小学3年生 <sup>6)</sup>	85.7%(H21)	90%以上
	進行した歯周炎を有しない40歳 <sup>7)</sup>	71.8%(H21)	90%以上

- 出典 1) 愛知県教育委員会調べ  
2) 大学生のメタボリックシンドローム予防事業調査(愛知県健康福祉部)  
3) 生活習慣関連調査(愛知県健康福祉部)  
4) 学校保健統計調査(文部科学省)  
5) 母子健康診査マニュアル報告(愛知県健康福祉部)  
6) 地域歯科保健業務状況報告(愛知県健康福祉部)  
7) 老人保健法による歯周疾患健診結果(愛知県健康福祉部)

## イ 食を通じて豊かな心を育むための目標



### ● 家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合

家族や友人と一緒に食卓を囲んでコミュニケーションをもつことは、食の楽しさを実感し、心の安定をもたらします。

1日最低1食、家族や友人と一緒に楽しく30分以上かけて食事をする人の割合を80%以上にします。

### ● 農林水産業に親しむ県民の割合

農林水産業の体験等を通じて、自然の恩恵や食にかかわる人々の活動への感謝や理解が深まります。

レジャー的な体験ではなく、同一作物等について2種類以上2日以上での体験学習を実施している小学校の割合(名古屋市を除く)を80%以上にします。

また、農林漁業体験、市民農園<sup>注)</sup>、援農<sup>注)</sup>、農村環境保全活動など、農林水産業に親しむ活動に参加する県民の割合を60%以上にします。

### ● 学校給食において地域の産物を活用する割合

学校給食で地域の産物を多く活用することにより、地元でとれる食材やその生産などについて園児や児童生徒が関心や理解を深めることは、地域の食べ物を大切に育て、食べようとする意欲につながります。

学校給食において地域の産物を活用する割合(全食品数に占める県産食品数の割合)を45%以上にします。

項 目		基準年	目標(H27)
○家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合 <sup>1)</sup> (1日最低1食、家族や友人と一緒に楽しく30分以上かけて食事をする人の割合)		60.2%(H21)	80%以上
○農林水産業に親しむ 県民の割合	農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合(名古屋市を除く) <sup>2)</sup>	62.8%(H22)	80%以上
	農林水産業に親しむ活動に参加する県民の割合 <sup>3)</sup>	43.7%(H22)	60%以上
○学校給食において地域の産物を活用する割合 <sup>2)</sup> (全食品数に占める県産食品数の割合)		37.0%(H22)	45%以上

出典 1) 生活習慣関連調査(愛知県健康福祉部)

2) 愛知県教育委員会調べ

3) 県政モニターアンケート調査(愛知県農林水産部)

## ウ 食を通じて環境に優しい暮らしを築くための目標



### ● むだや廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合

食材を有効に使ってむだや廃棄の少ない食事をつくることは、ごみの減量につながります。これを積極的に行っている人の割合を50%以上にします。

### ● 県産農水産物を優先して購入したいと思う県民の割合

身近な食べ物の消費や利用を進めることは、遠くから運ばれてくる食べ物を使うことよりも輸送にかかるエネルギーを節約できます。県産農水産物を優先して購入したいと思う県民の割合(米、野菜、果物、肉、卵、魚の購入意向の平均)を30%以上にします。

### ● 農産物環境安全推進マニュアル<sup>注)</sup>を始めとしたGAP手法の導入組織・法人数

農業生産において、農薬や化学肥料の使用を減らし、河川や海、地下水など環境への負荷の軽減と農作物の安全性の確保を図ります。

農産物環境安全推進マニュアルなどにより生産工程ごとの管理を適切に行い、農業生産に伴う環境負荷を軽減するとともに農産物の安全性を確保する「GAP手法」を導入する組織や法人等の数を120以上にします。

項目	基準年	目標(H27)
○むだや廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合 <sup>1)</sup>	43.0%(H22)	50%以上
○県産農水産物を優先して購入したいと思う県民の割合 <sup>2)</sup> (米、野菜、果物、肉、卵、魚の購入意向の平均)	18.0%(H21)	30%以上
○環境や安全等に配慮して農業生産工程を管理するGAP手法の導入組織・法人数 <sup>3)</sup>	93件(H22)	120件以上

出典 1) 消費生活モニターアンケート調査(愛知県農林水産部)

2) 県政モニターアンケート調査(愛知県農林水産部)

3) 愛知県農林水産部調べ

## (2)食育を支えるための目標



「体」、「心」、「環境」に視点をおいた食育の目標に加えて、食育を支えるための目標を次のとおりとします。

### ● 食育推進ボランティアから食育を学んだ人数

県民一人ひとりが食育に関心を持つだけでなく、自ら実践するためには、地域で自主的に食育活動に取り組む多様な人材から知識や技術を学ぶことが効果的です。

愛知県では、地域で食を学ぶ機会が拡大するよう、こうした食育に携わる方々に対し「愛知県食育推進ボランティア<sup>注)</sup>」として登録いただき、その活動を支援しています。

食育に携わる人材を通じた学びの状況を示す指標として、「愛知県食育推進ボランティア」から食育を学んだ人数を年間10万人以上にします。

### ● 食育推進計画を作成・実施している市町村の割合

地域の実状に合わせた食育を推進していく上で、市町村の果たす役割は重要です。全ての市町村において、食育推進計画を作成・実施するようにします。

### ● 「いいともあいち運動<sup>注)</sup>」を知っている人の割合

「いいともあいち運動」は、県内の消費者と生産者が相互理解や交流を深めたり、地産地消を進めることで、県民みんなが県の農林水産業を支えていこうという、本県独自の取組です。

「いいともあいち運動」を知っている人の割合を50%以上にします。

項 目	基準年	目標(H27)
○食育推進ボランティアから食育を学んだ人数 <sup>1)</sup>	5.7万人(H22)	10万人
○食育推進計画を作成・実施している市町村の割合 <sup>1)</sup>	86.0%(H22)	100%
○「いいともあいち運動」を知っている人の割合 <sup>2)</sup>	36.0%(H21)	50%以上

出典 1) 愛知県農林水産部調べ

2) 県政モニターアンケート調査(愛知県農林水産部)